

第1回審議会

宗像地区事務組合 水道ビジョン策定

令和4年8月5日

目 次

- 第1章 ビジョン策定の趣旨
- 第2章 事業概要
- 第3章 現況と課題
- 第4章 基本理念および基本方針
- 第5章 市民の意向調査
- 第6章 今後の施策
- 第7章 事業スケジュール
- 第8章 財政の見通し
- 第9章 フォローアップ

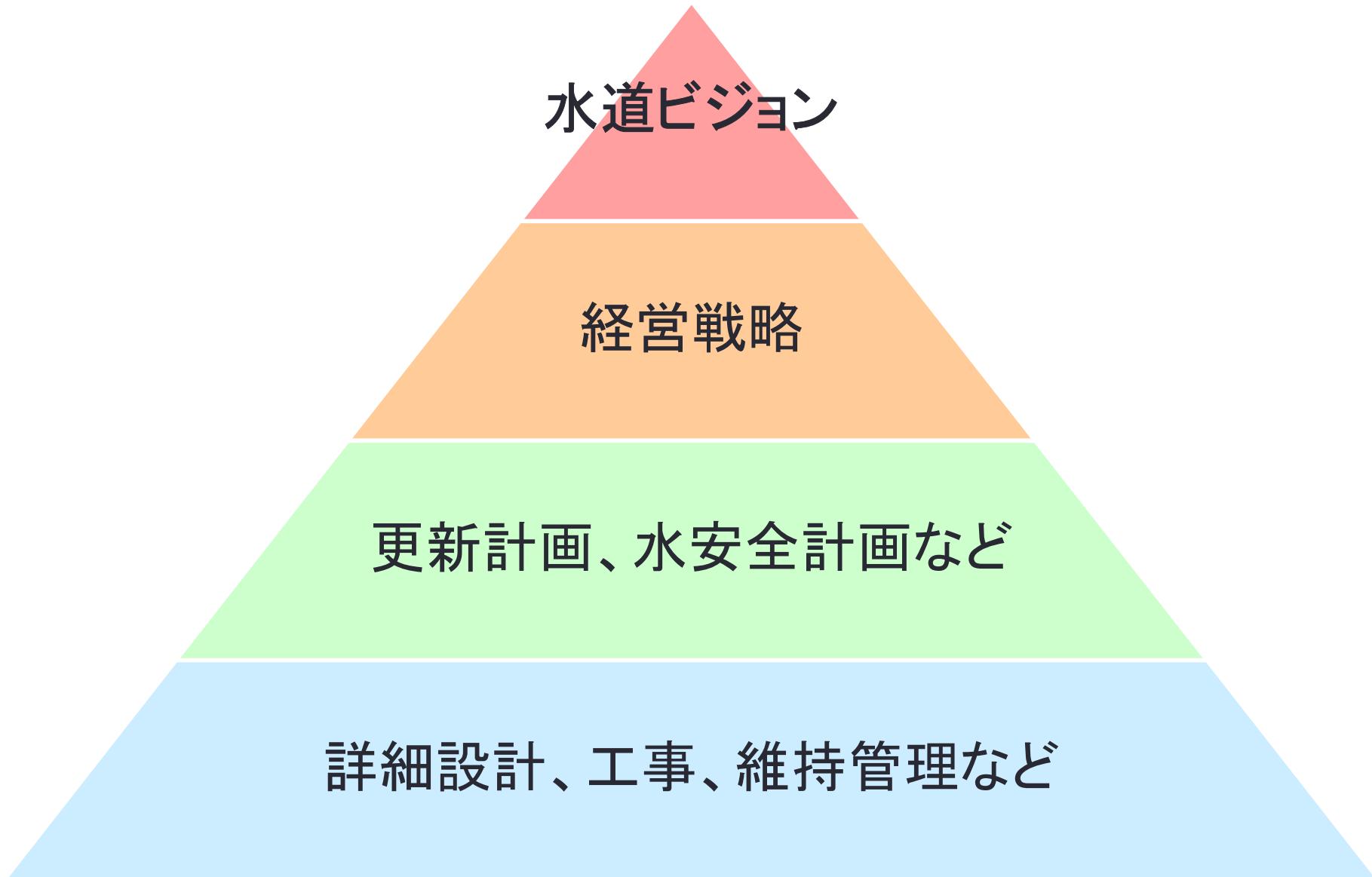
水道ビジョン策定の背景

- 全国的に年々厳しさを増す経営環境
- 水道事業が直面する課題は多種多様
 - 人口の減少
 - 施設の経年劣化
 - 補助金制度の緊縮化
 - ニーズの高度化
 - 経営手法の多様化
 - …等々
- 厚生労働省は今後の水道事業のあるべき姿・方向性を示した「[新水道ビジョン](#)」を公表
 - 平成16年6月 水道ビジョン公表
 - 平成20年7月 水道ビジョン改訂
 - 平成25年3月 新水道ビジョン公表
- 宗像地区事務組合は「[宗像地区事務組合水道ビジョン2027](#)」を平成29年度に策定(計画期間:平成30年度～令和9年度)

水道事業が直面する主な課題

主な課題	水道事業への影響
人口の減少	給水量の減少に伴う 収益の悪化
施設の経年劣化	劣化による 漏水 、老朽化による 減水や断水 施設を更新するための 財源確保
補助金制度の緊縮化	水道整備に関する 国の予算の縮減
ニーズの高度化	水道水の 質に対するニーズ の高まり
経営手法の多様化	効率的・効果的な事業経営に向けた 規制緩和 など (広域化や民間活力の活用など)

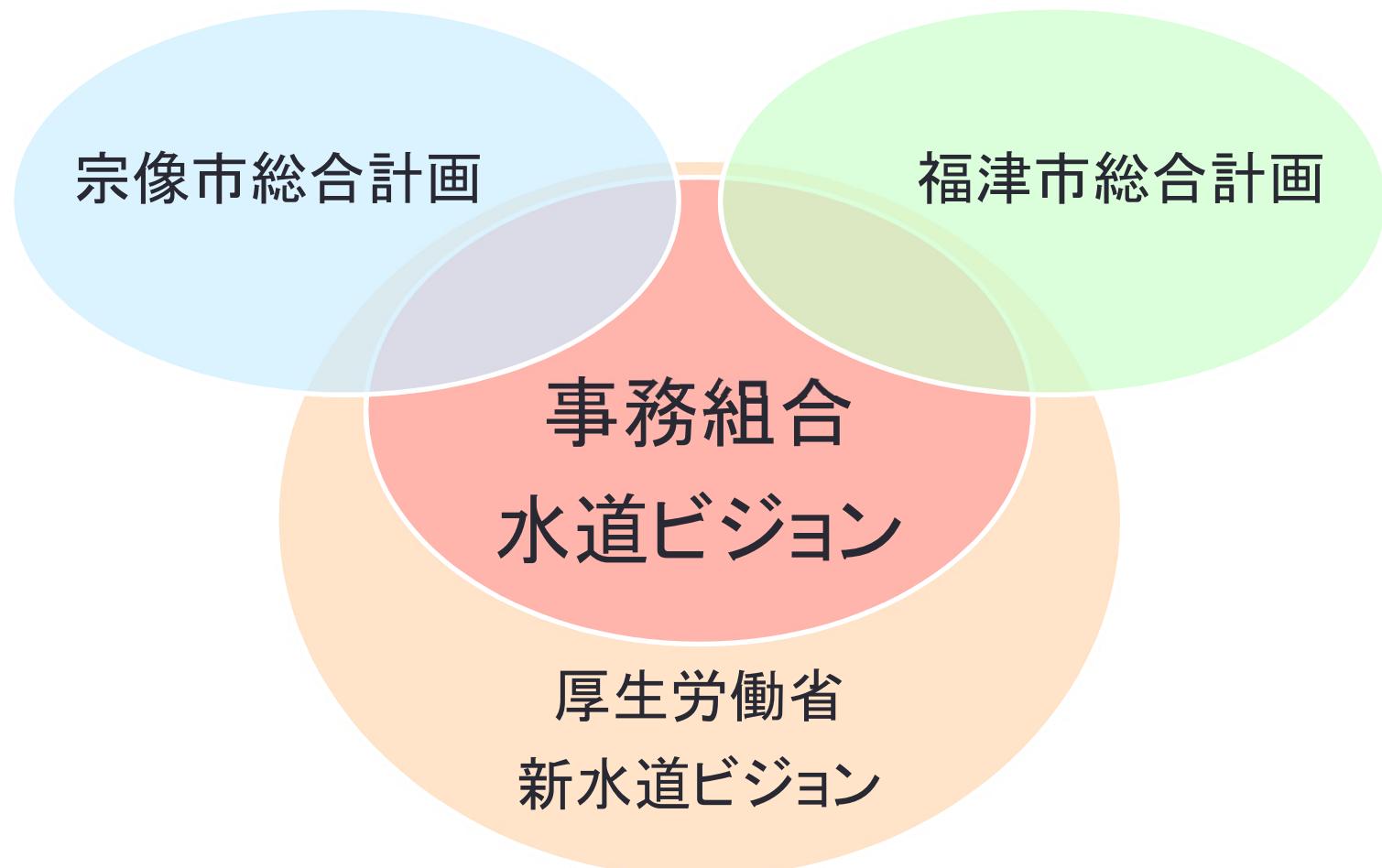
水道ビジョンは事務組合の羅針盤



水道ビジョンと上位計画との関係性

総合計画では将来人口の予測や水道に関する基本施策を提示

➡ 水道ビジョンに反映(上位計画との整合性)



水道ビジョンの計画期間

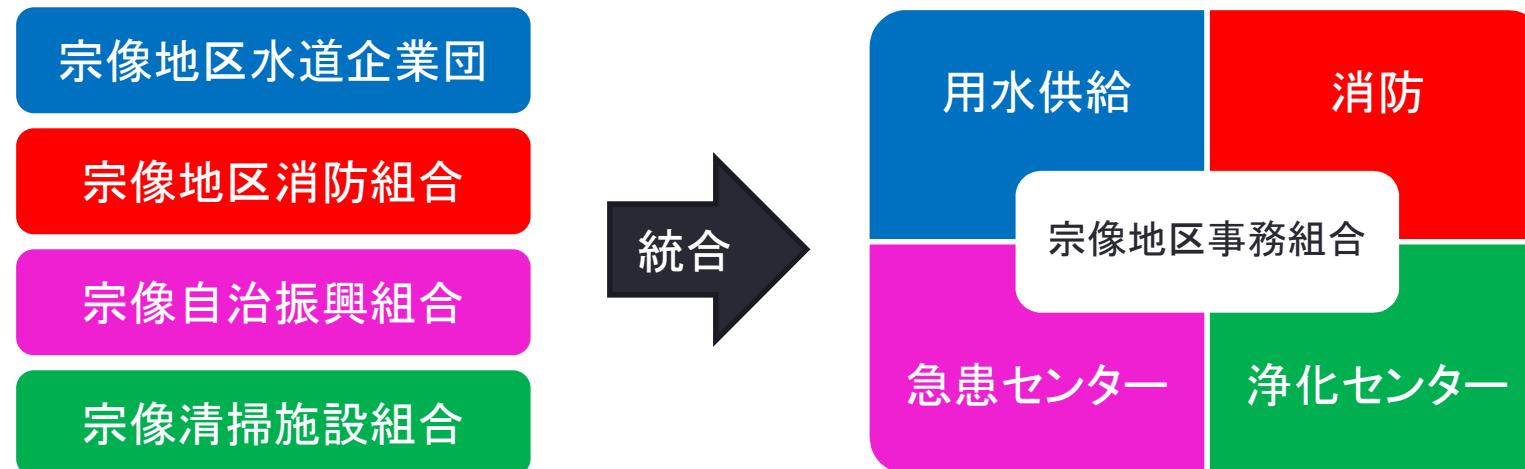
年度	H30	R1	2	3	4	5	6	7	8	9
現在の 水道ビジョン										

●中間見直しを実施

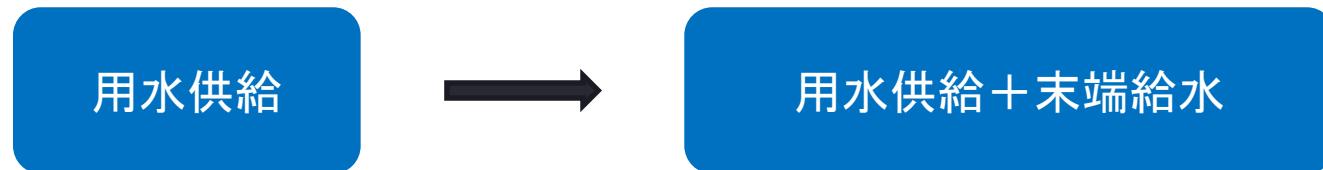
平成30年度～令和9年度までの10年間

宗像地区事務組合の発足

- 宗像地区事務組合は、広域行政の効率化を目的に、宗像地区にあった4つの一部事務組合を統合し、平成19年4月1日に発足しました。



- 水道事業については、平成22年4月1日に本組合用水供給事業と宗像市水道事業及び福津市水道事業を統合しました。



事業概要

事務組合では1つの上水道と2つの簡易水道を経営

事業名	計画給水人口 (人)	計画一日 最大給水量 (m ³ /日)	計画一人一日 最大給水量 (L/人/日)
宗像地区事務組合 水道事業	146,500	43,800	303
大島簡易水道事業	580	410	710
本木簡易水道事業	550	184	335

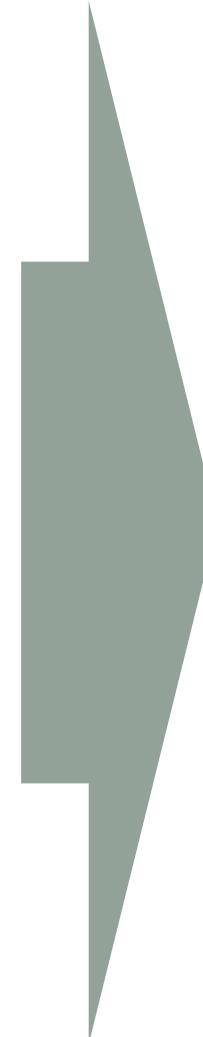
なぜ中間見直しをおこなうのか

前期5年間の事業進捗

地島簡易水道事業を事業統合【H31】

大島簡易水道事業会計を会計統合
【H31】

施設整備計画(水道管の布設及び布設
替の計画)の策定【R3】



後期5年
間の計画
に反映